

第 11 回鋼構造実験見学会

「孔あけ加工方法の違いによる引張耐力に関する試験」

主催：日本建築学会中国支部,日本鉄鋼連盟

共催：日本建築構造技術者協会

協賛：協同組合広島県鉄構工業会

会場：広島工業大学構造実験室（広島市佐伯区三宅 2-1-1）

講師：清水齊（広島工業大学）

日時：10月19日（土） 13:00～16:00

定員・会費：30名・無料

対象：本会・協賛団体会員,建築技術者,大学院生,大学生

問合せ・申込先：広島工業大学 建築工学科

清水齊 h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp

試験概要

高力ボルト摩擦接合のボルト孔の加工に関しては,建築工事標準仕様書 JASS6 においてドリルあけと規定されている.本試験においては,最近精度的に実用の域に達してきているとされているレーザー加工の孔あけによる接合部の引張耐力を,従来のドリル加工による場合と比較確認する。

試験体は「鋼構造接合部設計指針」の「付7 すべり係数評価試験方法」によるものとする。使用鋼材は SN400B、 SN490B、高力ボルトは摩擦接合用トルシア形 (S10T)M16 および M20 を使用する。添板の摩擦面はサンダー掛けの後、発錆剤塗布、中板はブラスト後自然発錆とする。レーザー切断開始位置は載荷方向と直角位置とする。